７．総括

【目標の達成状況】

（当初）

- 海と深く結びついてきた東北の太平洋沿岸部の循環文化型の集客・雇用・地域の千年継承する地域の維持管理システムを共創することを目指しています。
- 具体的には、子どもを中心に、全国の方々に海と被災地に対する関心を末永く持っていただき、防災意識の喚起につなげるとともに、震災の記憶を長く心に留め、継続して被災地の海を訪れていただく流れを創ることを目標としています。

（2015年の得られた成果と達成状況）

- 今回の事業においては、立ち上げ段階ということもあり、具体的な達成状況は定量的には表せないが、巡礼地を巡って頂く最低限の環境が整ったことから、次年度において継続して被災地の海を訪れていただく流れを創ることができると考えているが、子どもの参加がなかったこと、海との連携をさらに強化することが反省点であり、改善して行きたい。

【それを達成することで期待される効果】

（当初）

- 海の巡礼地と周辺地を環境省「みちのく潮風トレイル」の復興エコツーリズムとの連携も検討しながら体系的に結び、全国全世界から人々を呼び込み、東北の太平洋沿岸被災地の経済（巡って、食べて、飲んで、泊まって、お土産を買って）の活性化を促します。
- 船や鉄道、バス、自家用車、徒歩などでの回遊を想定していますが、巡礼者に対する地域での受け入れ環境を整え、各被災地事業者の経営安定化と地域住民の雇用の場の確保実現に繋げます。これにより、海を起点とした交流人口の増大はもとより、国際化、自立・循環型社会の継承、誇の醸成、雇用の創出が見込まれます。

（2015年の達成状況）

- 立ち上げ段階ということもあり、具体的な達成状況は定量的には表せないが、巡礼地マップをネクスコ東日本のＳＡや道の駅で配布頂けることとなった。「みちのく潮風トレイル」の復興エコツーリズムとの連携については、マップでルートを簡単に紹介するに留まっており、さらなる連携が必要と考えている。

（今後の予定）

- 第3次の巡礼地選定に向けて調査及び準備を進め、巡礼地創生委員会を開催し、2016年3.11前に第3次発表をフォーラム開催時に行う予定である。また、お陰様で巡礼するための最低限の情報発信環境が整ったことから、次年度以降はツアー実施は地元協力者に任せ、全エリアへの海を活用した誘客戦略を検討するとともにこころのみち（東北お遍路）の周知方法についても検討していきたい。

事業成果物：

① 巡礼地選定リスト（第２次）

■東北お遍路（こころのみち）巡礼地／第2次発表

NO	所在県	巡礼地名称	所在地	1000年先まで語り継ぎたい震災の物語
1	青森県	蕪島神社	八戸市鮫町字鮫56	蕪島は、悲惨な太平洋戦争を見守った島であるとともに本震災では、島一帯が津波に飲み込まれ防波堤の決壊、観光案内所などが使用不能となり、周辺一帯がレモンの山となりましたが、復興支援活動が展開され、観光地として再出発を果たしています。多くの御霊に守られ災害から立ち直った蕪島を巡礼地として是非、語り継ぎたい。
2	青森県	大蛇小学校の2つの津波の碑	階上町道仏字大蛇３０－１	大蛇小学校の校庭には昭和の大津波の時の「海嘯記念碑」と今回の震災の津波の碑が数100メートル離れて立っている。昭和の津波以来、地域でいいならわされていたのは、「ほら逃げろ、津波の時は線路まで」という言葉だった。おかげで大地震の後住民は高台の線路より西に避難して、一人の犠牲者も出さなかった。 この言葉が人々の尊い命を救ったとして、「忘れるな　あなたを守る　地域の絆」と刻んだ新たな津波の碑が2011年11月に立てられた。 震災の時には、汗上に避難した漁船が3日間寒さと空腹に耐えたが、八戸からの救援の船が食料を届けたという話も聞かされた。学校の入り口の壁防に鮮やかなペンキで子供たちの絵が描かれていた。
3	岩手県	津波慰霊碑	洋野町八木地区	洋野町で津波の被害が最も大きかったのが八木地区。ここは明治、昭和の津波の際も数人の犠牲者が出て、海沒の碑が八木の港の近く（敷度高同かい）に残っている。今回は隣八木地区の金山神社の自主防災組織の奮闘で犠牲者が出ないで済んだ。明治と昭和3年の大津波の慰霊碑がここに立っていて、毎年3月3日に慰霊祭と防災興隆がなされていた。お陰で、東日本大震災でも町は大きな被害が出たが、犠牲者はゼロだった。今回防災体地ができることになり、慰霊碑を移動させることになるが、さらに防災教育の場としていく。
4	岩手県	大鳥居と槐の木	野田村	大鳥居に積れた家屋がひっかかり、津波の力を弱めたが、鳥居のところで多くの遺体が発見された。槐の木は、かkの津波の時にこれに捕まって助かったという話が残っている。今回も多くの人が槐を目指して逃げて助かった。 愛宕神社に続く参道に大鳥居があり、津波の瓦礫がここで食い止められた。多くの人の遺体を収容する場にもなった。鳥居のそばには明治の津波の際ここにからも下がって人が助かったという話があり、切られずに鳥居のそばに移植されていたもので、津波の記憶を継承するにふさわしいのこと。
5	岩手県	ケルン・鎮魂の鍵と光	岩手県久慈市長内町諏訪下　JC公園地内	久慈市のNPO法人岩手・久慈ケルンの会（一沢明男会長）が造った石積みのモニュメント「ケルン・鎮魂の鍵と光」。市内外の個人、企業、団体の協力で集まった寄付金と、見宝らが思いを書き込んだたくさんの石が形となった。「復興のしるべに」との願いを込め、東日本大震災の教訓を後世に伝える。 　モニュメントは久慈港に面する同市長内町のJC公園内に建立した。巻山の道しるべとなるケルン（石積み）をモチーフにした円すい形で、高さは久慈を襲った津波高を参考に海抜14・5メートルに設定した。 市内で発生したがれきの土台の上に市民が持ち寄った石を積み上げ、表面には久慈の児童らが「絆」「むひとつに」などと記した石が組まれた。モニュメント脇に鍵が設置されている。 77年前の函館の大火で2,800人余りの死者・行方不明者が出た際、久慈など岩手各地から義援金が贈られた恩返しもと、函館市から小型中古漁船227隻が久慈市に無償で贈られた。ちょうど漁期を迎えるワカメ漁やウニ漁に間に合い、久慈市内各地の漁港に戻けられ漁が再開された。久慈港は日本初の銀り込み式港湾で、そこに船が迷なって入ってくる様は感動的だったと市民
6	岩手県	机浜番屋群	田野畑村机浜	机浜番屋群再生プロジェクトは、田野畑ファンの皆様との「絆（きずな）」、住民（漁民）と行政（村）の「結（ゆい）」により、村の復興のシンボルとなる新しい番屋群づくりを進めていく活動。 　漁村の原風景を取り戻したい、被災地田野畑村の漁村文化を一緒に再生したい、そんな想いを共有できる皆様からの「机浜番屋群」再生プロジェクトへのご支援が集まっている。
7	岩手県	小本小学校奇跡の130段の階段	岩泉町	太平洋に臨む岩泉町小本地区は、小本川沿いに半農半漁の住民158世帯、428人が暮らしている。小本小学校は同地区の奥に位置し、背後には国道45号が横切っているが、高さ十数メートルの切り立ったが付に阻まれ、逃げ場がなかった。 　同小の避難ルートは以前は別だった。住民からの強い要望で、数年前の避難訓練の際、伊達勝身町長が「児童が津波に向かって逃げるのはおかしい」と国土交通省三陸国道事務所に掛け合って変更。平成21年3月に国道45号に上がる130段、長さ約30メートルの避難階段が完成した。 　今回の巨大津波は小本地区と川を挟んだ中野地区（176世帯、422人）を直撃。130棟の家屋をのみ込み、校舎手前の民家もなぎ倒した。児童は予想外のスピードで迫る津波から逃れるため、避難階段を必死に駆け上り、高台の広場に逃げ込んだ。校舎と体育館は水に浸かり、今も使えない。 　高橋渉副校長によれば、階段のおかげで避難時間が5～7分短縮できたという。広場の倉庫には毛布やテントも用意してあった。児童88人を救った130段の階段、高橋副校長は「あと10分、避難が遅れていたらどうなっていたか分からない。少なくとも何人は!?」がもしていたかもしれ
8	岩手県	震災メモリアルパーク中の浜	岩手県宮古市崎山中の浜	平成26年5月24日に開園した「震災メモリアルパーク中の浜」は、震災によりl5メートルを越える大きな津波が押し寄せ甚大な被害を受けた「中の浜キャンプ場」を震災の記憶を後世に伝える公園として環境省が整備したもの。
9	岩手県	御蔵山	山田町	「鎮魂の鍵」は時が経っても震災を忘れることがないように、また被災者の鎮魂、犠牲者への追悼、復興の象徴として山田ロータリークラブが設置し、震災発生からちょうど1年の3月11日に除幕式を行った。鍵の近くには震災による大火災で焼失した JR陸中山田駅の歴上にあった大時計も展示されている。
10	岩手県	私設こすもす公園（希望の壁画）	釜石市甲子町洞泉	私設「こすもす公園」に隣接する工場の外壁に「希望の壁画」が26日、完成した。東日本大震災の仮設住宅建設で公園が減る中、「子どもたちに元気に遊んでほしい」という願いを込めた手作り公園の設住上げに、支援の輪が広がった。壁画は横43メートル、高さ8メートル。「再生　太陽の国」をテーマに、太陽と幸せを運ぶ鳥が色鮮やかに描かれ、周囲の山の風景に溶け込んでいる。
11	岩手県	鵜住居メモリアルパーク	釜石市鵜住居	避難していた住民が大勢亡くなった鵜住居防災センターを中心に、地震の後住民が避難していたが、津波に飲み込まれ、周辺住民合わせて200名の死者が出たところ。市は「メモリアルパーク」として整備する計画でいる。
12	岩手県	津波石、津波記憶石	大船渡市三陸町吉浜海岸	昭和三陸大津波の際、吉浜川河口付近にあった巨大な石が、押し流されて陸地へ移動した。当時の村民が後世への戒めにとその石に「津波記念石」と刻んだ。しかし人目につきにくいところにあったため、いつしか道路工事で埋め戻されてしまっていたが、すさまじい津波の破壊力により道路が壊れ、再び「津波石」は姿を現した。近隣に、大津波の事実と「奇跡の集落・吉浜」の教訓を後世に伝えるとともに、亡くなられた方々への慰霊の気持ちを込めた「津波記憶石」が設置されている。
13	岩手県	津波を見ていた3本の大ケヤキ・ポプラ・大スギ	大船渡市三陸町越喜来（おきらい）	越喜来が津波の襲みこまれたが、海に程近いところに立つ大ケヤキとポプラはそれに耐えて生き残った。この大ケヤキは明治、昭和の津波にも見舞われた「津波木」。すぐ高台にある神社には大杉があり、この町の津波の歴史を見て来た古木。
14		奇跡の一本松（復興祈念公園内）	陸前高田市高田松原	高田松原は、約7万本の松があったが全て流されてしまい、たった1本、津波に耐えた松が残ったが枯死した。モニュメン化による保存を行っている。
15	宮城県	早馬神社	気仙沼市唐桑町宿浦75	神社は海抜12メートルの高台にありますが、大津波に襲われ流した。震災時は、逃げてきた近所の方や、お参りしていた方と、早馬神社よりさらに上の、石段の上にある別の社まで逃げ、そこでしばらく暮らしたそうです。
16	宮城県	紫神社	気仙沼市南町1-2-12	紫神社がある南町は気仙沼市で最も古い歴史を持っている。震災後、すぐに避難所、心の拠り所となり、現在も津波により流された若い店主たちが中心となって、気仙沼復興商店街である南町紫市場がオープンしている。
17	宮城県	みちびき地蔵	気仙沼市大島	1770年代に気仙沼大島に祀られ、津波被害者の伝説が残るなど大島住民の信仰を集めてきました。311の地震による津波で流失し、地蔵堂が全壊しましたが、再建を決定しました。また、みちびき地蔵はテレビ「まんがにほん昔ばなし」で放送されたこともあります。
18	宮城県	尾崎大明神	気仙沼市松崎尾崎	気仙沼湾に面する海抜10mの神社。多くの人がすぐに避難してきて33人が無事だった。津波で孤島になり、あと1mで水没するくらいまで波が迫り避難した人たちが流されないよう境内の木々にロープを張り巡らして助かった。神社は海が近かったが、波が直接当たらなかったので全員助かった。大明神様に助けられたことに感謝し、津波の怖さと非戦することの大切さを語り継いでいきたい。
19	宮城県	岩井崎（地福寺、気仙沼向洋高校、龍の松、秀ノ山雷五郎像等）	気仙沼市波路上岩井崎	気仙沼の岩井崎にも大津波が襲いかかり多くの尊い、大切な命が失われたが、大波迫巻く岬の先端に立ちながら負けずに残った1つの松、やがて人々の鎮魂の想い、復興を願う心が強い龍となり、その松を龍へと変えた。また、当地出身の第9代横綱秀の山雷五郎像、地福寺が残っています。

20	宮城県	上野山八幡宮	南三陸町志津川字上の山27-2	昭和35年のチリ地震津波の時には、役場防災庁舎の北隣に鎮座していた。昭和46年に現在地に遷座。津波は鳥居の下まで襲来した。
21	宮城県	南三陸町防災対策庁舎跡	南三陸町志津川町	防災対策庁舎では繰り返し「高台へ非難してください」と防災無線で呼びかけ続けていたが、その3階建て庁舎屋上を2mも上回るとんでもない津波が襲い、町職員42名が犠牲となった。
22	宮城県	宮城県慶長使節船ミュージアム	石巻市渡波字大森30-2	復元船建造以来、この地で誇る経験したことのない未曾有の大地震・大津波にも果敢に耐え、大航海時代の荒波にも耐えうることをこの復元船は証明したのです。慶長使節の偉業を世界へ発信し、慶長使節に関連する記憶の継承と、被災してもなお立ち上がる難の姿を、多くの方々にご覧いただき語り継いで欲しい。
23	宮城県	善誓寺	石巻市中瀬2丁目2-5	江戸時代に北上川河口の石巻、流域に住む人たちを水害から守り、石巻の発展の礎を築いた川村孫兵衛が伊達家の祈願を願い追真により建立、石巻川開きでは前夜祭に慕前供養祭を行い、石巻北上川河口にて孫兵衛翁慰霊感謝祭などを行っています。
24	宮城県	門脇町を見守るお地蔵さま(西光寺)	石巻市門脇町2丁目5-7	今回の津波で壊滅的な被害を受け、私の両親のほか、たくさんの人がでなくなりました。小学生の頃、お地蔵さんの下(土の中)から小さなお地蔵さんがみつかり、「お地蔵さんが子供を産んだ」と騒いたことがあります。今となってみれば、大昔にも津波があり土の中に眠っていたのかもしれませんね。きっとお地蔵さんはこの町の復興を見守ってくださっていると思います。
25	宮城県	日和山公園	石巻市	石巻の町の歴史的中心の至近にある。平安時代に遡る鹿島御児神社があり、伊達政宗は本来、日和山に築城したかったとの説もある。津波がひどかった門脇町、南浜町などの住人が皆ここへ逃げてきた。被災地を見渡せる場所でもある。
26	宮城県	石巻ハリストス正教会	石巻市千石町4-10	キリスト教・正教会の教会、明治13年築。津波で2階まで冠水し、建物が傾き壁面が大きく破壊されるなどしたが流失は免れた。移築復元する方針。
27	宮城県	十八成浜白山神社	石巻市十八成浜	東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県石巻市十八成浜で、地域のシンボルとなっている白山神社の鳥居が14日、再建された。十八成浜地区で支援活動を続けるボランティア団体「愛知ボランティアセンター」(名古屋市)や豊田市前林中の生徒たちの寄付金を活用した。海岸線から100メートルほどの高台にある神社の鳥居は、海沿いを通る県道に面した参道入り口に立っていた。震災の津波で、神社の建物は無事だったが、石造りの鳥居は倒壊した。 十八成浜行政区の後藤正信区長は「神社は地域の守り神。5月3日の例祭に間に合うように、鳥居を建立できて良かった」と感謝している。
28	宮城県	貞観地震の千年石碑と観音寺	東松島市宮戸島二ツ視地区	貞観地震の際に二つの津波がこの場所でぶつかったと言われ、津波が来たらこの地点より高い所に逃げろ、と昔から言われています。東日本大震災でも海岸付近の住民がこの付近にある宮戸小学校へ避難して全員助かりました。
29	宮城県	瑞巌寺、観瀾亭	松島町	瑞巌寺は、平安時代から続く由緒ある禅寺で、江戸時代になって伊達政宗が 再興させたところであり、立地している松島は島々の自然の力によって最低限の被害で済みました。観瀾亭は、伊達政宗が豊臣秀吉から拝領した伏見桃山城の一棟で、江戸品川の藩邸に移築したものを二代藩主忠宗が松島に移したと伝えられ、震災時には観光客の避難場所となった建物です。
30	宮城県	同性寺	七ヶ浜町	一次避難地であったが、実際の津波は想定より2m以上高く、避難した約60人の住民は防災リーダーの機転で高所へ再避難し、全員無事だった。
31	宮城県	末の松山(宝国寺)	多賀城市八幡2丁目8-28	「百人一首」で清原元輔が歌った「契りきな かたみに袖をしぼりつつ末の松山 波こさじとは」の歌の石碑がある。古来から869年の貞観地震・津波を歌ったのではないかと伝承されていたが、今回の震災の津波もその直前で止まったことから、その伝承が正しいものと考えられるようになった。
32	宮城県	蒲生干潟	仙台市宮城野区蒲生	震災の津波で干潟は砂で埋まり、その後河口部の砂の堆積、台風被害などで干潟の回復が懸念されていますが、景観と環境が被害と回復を象徴するところとして語り継ぎたいと思います。
33	宮城県	浪分神社	仙台市若林区霞目陸上自衛隊駐屯地付近	天保期に、慶長の大津波が二つに分かれて引いた場所に稲荷社を移し、津波よけの神社とした。この神社には、白馬にまたがった海神が大津波を南北に分けて鎮めたという伝説がある。
34	宮城県	閖上湊港と日和山	名取市閖上	明治の頃に漁師さんたちが海の状況を見る「日和見」のために山を作ったといわれています。津波の当日も中学生がそこに避難し、流れてきた漁船に飛び乗って五叉路付近まで流れ着いて助かったという話を伺いました。
35	宮城県	仙台空港	名取市、岩沼市	東北の空の玄関口、仙台国際空港は津波により浸水しましたが、米軍の「トモダチ作戦」により、早期に復旧しました。この米軍の支援を後世に伝えることも重要と考えています。
36	宮城県	千年希望の丘	岩沼市	岩沼市が沿岸部の津波被災を伝えることと人々を津波から守ることを念頭に整備した15の丘からなる。それぞれの丘は震災瓦礫を混ぜた土砂を基礎とし、公園として整備した国内の国道は元々の地域の生活道を残している。その地域の生活空間であったことを伝える工夫がされている。整備された丘の一つに元々公園だったものがあり、その丘の頂上で3人の娘子が津波にのまれました。
37	宮城県	貞山運河	岩沼市～石巻市	宮城県の岩沼市から石巻市の沿岸50kmを結ぶ貞山運河は、伊達政宗の命により整備が創められ、米などの物資を運ぶ大動脈、ハイウェイとして機能するとともに、松並木の景観が美しい景勝地です。震災時には運河が津波の威力を減衰した可能性もあり、この歴史的事実を後世に語り継ぐ必要があるとともに通れる地を通るルートにもなると思います。
38	宮城県	戸花慈母観世音	山元町坂本(戸花山のふもと)	漂流し、ガレキで一夜を過ごした奇跡の場所。念仏講の数珠も流されましたが貴心ある方がガレキの中から取り出し、洗ってくれてお寺に収めてありました。 被災体験を語り継ぐ「やまもと民話の会(代表庄司アイさん)」の願いに賛同した県内外からの支援で建立された。
39	宮城県	わたり温泉鳥の海	亘理町荒浜築港通り41-2	7mの津波に耐え、建物の壁上から撮影した荒浜を襲う写真が河北新報社の「東日本大震災全記録」の見開きとなってた。建物は再開され復興のシンボルとなる。
40	宮城県	山元町立中浜小学校と千年塔	山元町坂元字久根22-2	地震発生直後、避難を即決し、教職員は児童全員を壁上の壁根裏倉庫へ上げた。やがて津波は校舎をのみこんだが、壁上の壁根裏倉庫だけは無事で、児童と教職員全員が助かった。
41	宮城県	山元町磯崎山公園(唐船番所跡)	山元町坂元字浜谷地45	外国船監視のために1646年(正保3)に設置された番所跡。震災当時は周辺住民の数名がここへ避難したが裏壁付近まで波が押し寄せ、皆死を覚悟したという。伊達政宗公が建ったと伝えられる石もある。
42	福島県	龍昌寺	新地町谷地小屋字関崎	龍昌寺は、被災墓地の墓石をすべて探し出し、同時に遺骨も収集して納骨し、その上に観音様を建立してモニュメントにしました。
43	福島県	安波津野神社	新地町谷地小屋字釣師	安波神社は、豊漁と海上安全を祈る神社でしたが、被災してしまいました。今は仮の神社がありますが、近いうちに新しい神社を作る予定になっています。五年に一度の例大祭が行われる神社です。
44	福島県	大戸観音堂	新地町大戸浜	大戸浜観音堂は高台にあり、ここまで津波が到達しましたが、100人近い人がここまで逃れ、さらに観音堂の裏まで逃げて助かりました。
45	福島県	稲荷神社(寄木神社)	相馬市磯部字大浜	古来よりの言い伝えや言われは、古の人々の経験や体験に基づく知恵でいっぱいだ。大海原を望む丘に約70年わたり鎮として鎮座する寄木明神様を1,000年の未来に伝えたいと思う。「津波がきたらお明神様に逃げろ！」の古老の言葉とともに。
46	福島県	松川浦(松川浦公園)	相馬市松川浦公園	多数の犠牲者が発生したことから原釜・磯部地区等が一望できる大規より鎮魂の祈りを捧げる。松川浦と太平洋とを仕切る砂州が大津波のエネルギーを抑える砦になった。鵜ノ尾岬のところで砂州の一部は決壊し、外洋とつながってしまったものの、松川浦周囲の家々が流出するのを守った。
47	福島県	長命寺	相馬市大きな被害が出た岩子地区だが、集落の背後に断崖が帯のように迫っていたため、住民はこの高台に駆けあがり、集落が水没していく様子を見ていた。断崖の上にある長命寺で人々は不安な夜を過ごした。	
48	福島県	津神社	相馬市原釜字大津	"日本三代実録"に記述された貞観津波、また慶長津波の際も津波が神社すぐ近くまで迫りながらも被害を免れた伝承があり 今回の東日本大震災にも、津神社へ避難されたたくさんの方が無事でした。
49	福島県	北萱浜神社	南相馬市原町区北萱浜	北萱浜地区95世帯中65世帯が全壊したが、神社はほぼその形をとどめた。津波到達線上に多くの神社が点在し、人々の避難場所にもなった。先祖から受け継いできた神社を後世につなぎたいと再建のための募金活動も始まった。
50	福島県	相馬小高神社	南相馬市小高区小高城下173	昔の名残をとどめている唯一の神事「野馬懸」が行われる場所。震災の年は場所を原町区に移しての開催であったが、翌年(平成23年度)にはこの場所で再開された。
51	福島県	山田神社	南相馬市鹿島区北海老字磯ノ上	明治の終わり頃から昭和の初めにかけて手拭事業が行われ、その鎮守として祀ったのが山田神社です。氏子41人もの命が奪われましたが、鹿本高立体総工業高校から仮社殿を寄贈頂くなど多くの善意が寄せられました。山田神社は、震災・復興のシンボルとして祀っていかなければなりません、私たちが海を農地に変えたこと、良かったのか悪かったのか？その答えを将来に問わなければなりません。

52	福島県	延喜式内社　御刀（みと）神社	南相馬市鹿島区北右田字御宮112	延喜式内社は1000年にわたって津波物語を語り継いだ記念碑的存在とも言えるが、神社を維持してきた北右田集落60戸がほとんど津波で壊滅的被害を受け、集落解散の危機的状況にある。ちなみに逸話であるが、御刀神社の犯犬は津波に乗って隣の家の棟数に鎮座していたそうである。
53	福島県	福島第一原子力発電所	大熊町大字大沢字北原22番地	津波で電源を喪失し、原子炉が冷却できなくなり、3度の爆発を繰り返した。福島だけではなく日本中、世界中に恐怖と深い悲しみを残した「フクイチ」の事故を、「福島の問題」として葬り去られることのないよう願う。
54	福島県	熊川海水浴場	大熊町大字熊川字久森川	福島原発から3キロ、町民が愛した熊川河口の海水浴場に再び立つ日が来るのだろうか。
55	福島県	天神岬公園「津波防災対策ビューポイント」	相馬町	「津波防災対策ビューポイント」は東日本大震災による津波被害が甚大であった前原・山田浜地区を一望できる位置にある天神岬スポーツ公園に、津波被害の惨状やそこから得た教訓を広く後世まで伝えていくため、知る・伝える・苦う・観光の4つのコンセプトのもとに慰霊碑や展示パネルを設置したシェルター、展望デッキ等が建てられた場所です。「津波防災対策ビューポイント」が建設された天神岬スポーツ公園は、もともと学問の神様として知られる菅原道真公を祀った北田天満宮に公園を整備し、キャンプサイトや宿泊施設、温泉施設等のレジャー施設が整備され、震災以前は町内外から多くの人がお訪れ憩いの場として、親しまれていました。※完成予定は平成27年3月
56	福島県	修行院	広野町	原発の警戒区域解除後、被災した寺を住職が一人で片付けを始めている。いわき市の大学生らが何とか再建を支援しようとブログ開設などを手伝っているそうだ。
57	福島県	Jビレッジ　※美しいピッチが残るまで保留	広野町	震災当日は、地域住民40～50名の避難所となるが、翌日には原発事故の避難命令により全員退散。その後、東京電力の災害復旧拠点となる。震災前から地域にとっても、日本としても重要なスポーツトレーニングの拠点として使われてきたが、震災時の被害もなく、その後の地域との接点も厚い。東京電力の撤収後、スポーツ振興の拠点となることが望まれる。
58	福島県	薄磯地区海岸と塩屋崎灯台	いわき市豊間地区海岸	ほぼ壊滅的な津波被災地と8日以上灯りを灯せなかった灯台。
59	福島県	アクアマリンパーク	いわき市小名浜字辰巳町	海の恵みと結びついた観光の町の津波被災、その後の放射能汚染により極端に減少した水揚げ。 臨海水族館アクアマリンふくしま周辺の観光施設の筆頭がアクアマリンパーク。水族館アクアマリンふくしまは津波が施設の地上1階全体を浸水させ、9割の魚が死亡。3月16日にセイウチなど海獣を中心とした動物を他の水族館や動物園へ緊急移送（避難）させた。交通網の遮断に加えて福島第一原発事故で、燃料と餌の調達は困難で、その後もアザラシなどの海獣やカニなどの海洋生物・両生類・鳥類など約700種の個も入手できず、最後に残った小型発電機の燃料を使い果たし水の管理が出来なくなったため海洋生物20万匹が全滅した。福島の復興を願い7月15日、震災以来4ヶ月ぶりに営業を再開。震災後に生まれ、「きぼう」と名付けられたゴマアザラシが注目を集めている。
60	福島県	勿来の記憶の広場	いわき市岩間地区の防災緑地	勿来の市民らが津波の記憶を伝承しようと防災緑地を県と協働で行っている。津波被災伝承ゾーンの記憶の広場にはタイムカプセルが埋められ、被災地3地区の家族や関係者70名ほどがメッセージを入れる。これは20年後に子孫に手渡され、津波の記憶を繋いでいくことに役立てたいと願っている。
61	福島県	塩谷崎灯台と薄磯・豊間海水浴場	いわき市豊間地区	美空ひばりの歌で有名な塩谷崎灯台だが、震災で壊れ明かりが消えた。しかし復興の灯を灯そうと市民の懸命の努力で再開した。灯台をはさんだ薄磯海水浴場と豊間海水浴場周辺は壊滅的打撃を受けた。
62	福島県	道山林	いわき市新舞子	新舞子海岸にある江戸時代に作られた防災緑地。海岸線に10キロにわたって松林が続く。今回周辺の海岸は大きな被害を受けたが、道山林の背後は津波の被害が軽減され、浸水程度に終わった。江戸時代の知恵が住民を救った。
63	福島県	稲荷神社	いわき市久之浜町東町	秋葉神社を併設しているが、稲荷神社が正式名称。津波と火災で周囲が壊滅したにもかかわらず、この神社だけが残った。土台だけ残る中で復興のシンボルのように浜として建ち残っている。年に1回お祭りをして160年も地区の住民に敬われ祀られてきた。

② 紙芝居（2 作品）

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏（念仏講の時にいう言い方に） NA：念仏講（ねんぶつこう）とは、念仏を称えることによって住民がつながることを目 的とした仏教行事で浄土教系寺院において行われてきました。葬儀の際や村の行 事など、多くの民俗行事と密接に関係しており、地蔵菩薩・観音菩薩・不動明王など を祀る縁日に行われます。村落内の寄り合いとしての役割を果たしており、その宗 教的役割のほか娯楽の場ともなっています。そんな念仏講により住民同士が深くつ ながった宮城県山元町を2011年3月11日、襲ったのが東日本大震災の大津波でし た。

ばっちゃん「さあできたよ。ベランダへ出てヘリコプターに向けて振るんよ」
じっちゃん「おーい助けてくれー、ここだここ。助けてくれー」
ばっちゃん「ここにいるぞ。ここだここ」
・・・バタバタ・・・バタバタ
ばっちゃん「ダメだ。誰もきずいてくれねえ」
じっちゃん「くっそ！あんなにヘリコプター飛んでんのに、なんでだ何できずいてくれねえんだ」
孫「もう暗いから見えないんだよ。夜が明けるときっと消防の人が助けに来てくれるよ。待とう、じっちゃん、ばっちゃん朝を待とう」

NA：流されてからいく時間が経ったのでしょうか。家の揺れが収まり、物音がしなくなったので恐る恐る辺りを見回しました
じっちゃん「ここはどこだ」
ばっちゃん「わかんねえ。まわりはガレキだらけだ」
孫「あの煙突、ゴミ焼却炉でない？」
じっちゃん「バカ言うでねえ、焼却炉は家から2kmもはなれてんだ。そんなところまで来るわけねえ」
孫「だって、これ・・・ああっ、やっぱ焼却炉だ」
じっちゃん「こんなところまで・・・・ところで皆、大丈夫か？」
孫「私は大丈夫、怪我はないみたい」
ばっちゃん「オラも大丈夫だ。じっちゃんは？」
じっちゃん「ああ、大丈夫みてえだ。」
孫「外出れる？」
じっちゃん「今は無理だ。水が引くまで待とう」

（赤とんぼの歌を歌う）
夕焼小焼の、赤とんぼ
負われて見たのは、いつの日か
山の畑の、桑(くわ)の実を
小籠(こかご)に摘んだは、まぼろしか
十五で姐(ねえ)やは、嫁に行き
お里のたよりも、絶えはてた
夕焼小焼の、赤とんぼ
とまっているよ、竿(さお)の先
ご清聴ありがとうございました

１０

・・・・・

シーン

先生「えっ、どうした？」

先生１「な、何が起こったんだ？」

先生２「信じられないことが起きました。第二波の引き波と第三波がぶつかって帳消しになったみたいです」

先生「まさか！そっ、そんなことがあるのか。」

先生「私たち助かったんですね・・・・・・」

あたりの暗さが増すにつれ、静けさが戻ってきました。

先生「津波、収まったようですね」

校長「そうですね。大丈夫そうです。良かった。ほっとしました。でも、まだまだ油断は出来ません。全員を集めてください。私が話をします」

先生「わかりました」

１

平成元年春

来賓「先生、おめでとうございます。」

校長「ありがとうございます。やっとできましたよ」

来賓「素晴らしい校舎ですなあ。建設に当たっては随分苦労されたとか」

校長「この辺は海から近いですからね。津波が心配です。校舎は頑丈な鉄筋コンクリートとし、敷地全体を1.5メートルもかさ上げしました。東西に非常階段を設け、いざというときには二階に避難できます」

来賓「なるほど、そこまで考えておられると津波は大丈夫ですね」

校長「いざと言う時に備えた建物にしましたから大丈夫でしょう」

中浜のお寺、東福山高福寺を改修し坂元小学校の校校としてスタートし、昭和38年中浜小学校となり平成元年に新校舎が作られました。

１８

校長「生徒たちはどうですか？少しは寝たようですか」

先生「寝むれないようですね。泣き出したいのを懸命にこらえている子どもたちを見ているのがつらくって」

校長「本当ですね。でも救いは一人の犠牲者もだしていないことです。まだ神様は我々を見捨てていない・・そう思います」

先生「何としても、子どもたちを無事に親元に帰すのが我々の役目です」

校長「そのとおりです。一人の犠牲者も出してはいけません。命をかけて子どもたちをまもりましょう」

先生「はい」

校長「私、脱出ルートさがしてきます」

先生「朝を待った方がよいのでは・・・」

校長「皆が騒ぎ始める前に確かめておきたいんです。父兄の方も何人か同行してくれるといっていますので。先生はここを頼みます」

１２

校長「先生、寝むれるようにこの辺を整理してください。それと暖のとれるものを集めましょう」

先生「わかりました。先生やご父兄の皆さん、周りにあるありったけの段ボールをあつめてください」

父兄「段ボール？」

父兄２「そう段ボール。段ボールを開いて床にしくと温かいぞ」

児童１「聞いたことがある！先生！段ボールの断熱効果はすごいだよね」

先生「そうだよく知ってんなあ。さて次は掛布団どうするかだ」

校長「ビニールシートがありましたね。それを掛布団代わりにしましょう」

児童「先生、この衣装ケース何かにつかえますか！」

校長「トイレにしましょう。ポンプ室にもっていってください」

児童「エエッ！トイレ！？」（驚き縁がるように）

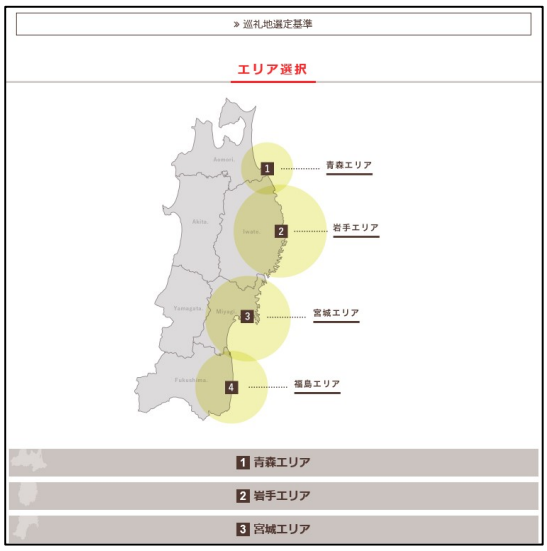
先生「懐中電灯が二つ見つかりました！電池も二本あります」

校長「それは何よりでした。一本はここで、もう一本はトイレ用に使いましょう」

③　巡礼地情報システム（こころのみち）⇒http://cocomichi.jp/

（トップページ）

（こころのみちしるべ）

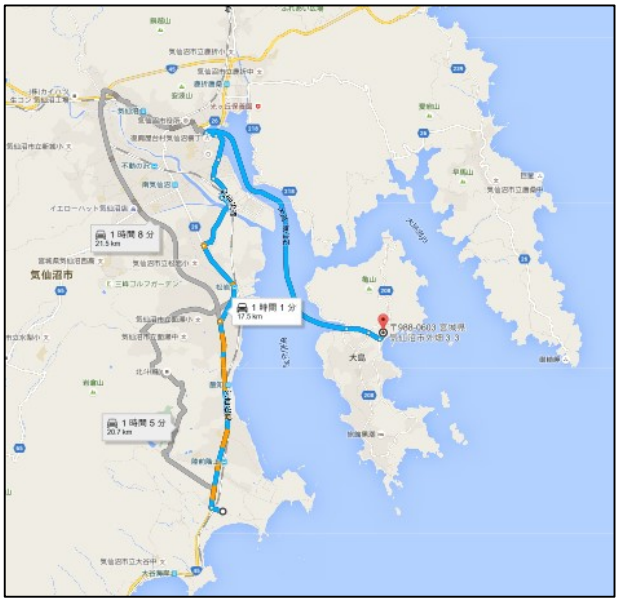


（巡礼地一覧）

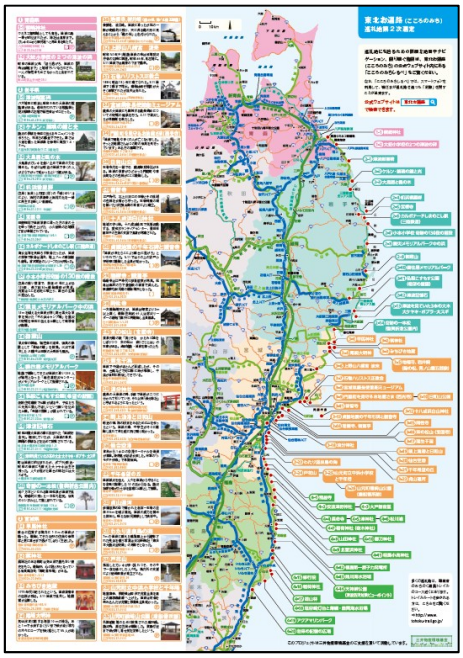
（巡礼地情報とこころのみちの物語）

（足跡を残す）

（ナビゲーション機能）

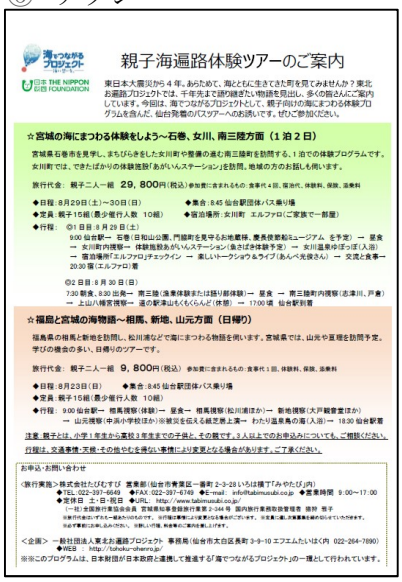


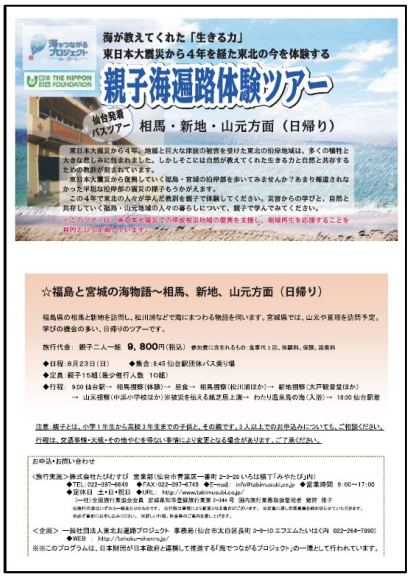
④　東北お遍路巡礼マップ



⑤　巡礼者識別目印検討案及び今回試作物（リストバンド、Ｔシャツ）

⑥　チラシ


親子海遍路体験ツアーのご案内
東日本大震災から４年。あらためて、海とともに生きてきた町を見てみませんか？東北お遍路プロジェクトでは、千年先まで語り継ぎたい物語を見出し、多くの皆さんにご案内しています。今回は、海でつながるプロジェクトとして、親子向けの海にまつわる体験プログラムを含んだ、仙台発着のバスツアーへのお誘いです。ぜひご参加ください。
☆宮城の海にまつわる体験をしよう～石巻、女川、南三陸方面（１泊２日）
宮城県石巻市を見学し、まちびらきをした女川町や整備の進む南三陸町を訪問する。１泊での体験プログラムです。女川町では、できたばかりの体験施設「あがいんステーション」を訪問。地域の方のお話しも伺います。
旅行代金：親子二人一組　29，800円（税込）参加費に含まれるもの：食事代４回、宿泊代、体験料、保険、送迎料
◆日程：8月29日（土）～30日（日）　◆集合：8:45 仙台駅団体バス乗り場
◆定員：親子15組（最少催行人数　10組）　◆宿泊場所：女川町　エルファロ（ご家族で一部屋）
◆行程：①１日目：８月２９日（土）
9:00 仙台駅→　石巻（日和山公園、門脇町を見守るお地蔵様、震長使節船ミュージアム　を予定）→　昼食
→　女川町内視察→　体験施設あがいんステーション（魚さばき体験予定）→　女川温泉ゆぽっぽ（入浴）
→　宿泊場所「エルファロ」チェックイン　→　楽しいトークショー＆ライブ（あんべ光俊さん）→　交流と食事→
20:30 頃（エルファロ）着
②２日目：８月３０日（日）
7:30 朝食、8:30 出発→　南三陸（漁業体験または掛り部体験）→　昼食　→　南三陸町内視察（志津川、戸倉）
→　上山八幡宮視察→　道の駅津山もくもくらんど（休憩）　→　17:00 頃　仙台駅到着
☆福島と宮城の海物語～相馬、新地、山元方面（日帰り）
福島県の相馬と新地を訪問し、松川浦などで海にまつわる物語を伺います。宮城県では、山元や亘理を訪問予定。学びの機会の多い、日帰りのツアーです。
旅行代金：親子二人一組　9，800円（税込）参加費に含まれるもの：食事代１回、体験料、保険、送迎料
◆日程：8月23日（日）　◆集合：8:45 仙台駅団体バス乗り場
◆定員：親子15組（最少催行人数　10組）
◆行程：9:00 仙台駅→　相馬視察（体験）→　昼食→　相馬視察（松川浦ほか）→　新地視察（大戸観音堂ほか）
→　山元視察（中浜小学校ほか）※被災を伝える絵芝居上演→　わたり温泉鳥の海（入浴）→　18:30 仙台駅着
注意 親子とは、小学１年生から高校３年生までの子供と、その親です。３人以上での参加についても、ご相談ください。
行程は、交通事情・天候・その他やむを得ない事情により変更となる場合があります。ご了承ください。
お申込・お問い合わせ
＜旅行実施＞株式会社たびむすび　営業部（仙台市青葉区一番町 2-3-28 いろは横丁みやたび内）
◆TEL: 022-397-6649　◆FAX: 022-397-6748　◆E-mail：info@tabimusubi.co.jp　◆営業時間　9:00～17:00
◆定休日　土・日・祝日　◆URL：http://www.tabimusubi.co.jp/
（一社）全国旅行業協会員　宮城県知事登録旅行業第 2-344 号　国内旅行業務取扱管理者　猪野 雅子
※旅行代金はパッケージ一組あたりのものです。当行指定事項により変更される場合がございます。宿泊費に関しては事業補助額が反映されていた所存です。
※必ず事前にお申し込みください。当日しいて現、料金等のご案内を差し上げます。
＜企画＞　一般社団法人東北お遍路プロジェクト　事務局（仙台市太白区長町 3-9-10 エフエムたいはくビル内　022-264-7890）
◆WEB：　http://tohoku-ohenro.jp/
※このプログラムは、日本財団が日本政府と連携して推進する「海でつながるプロジェクト」の一環として行われています。


海が教えてくれた「生きる力」
東日本大震災から４年を経た東北の今を体験する
親子海遍路体験ツアー
仙台発着バスツアー　相馬・新地・山元方面（日帰り）
東日本大震災から４年。地震と巨大な津波の被害を受けた東北の沿岸地域は、多くの犠牲と大きな悲しみに包まれました。しかしそこには自然が教えてくれた生きる力と自然と共存するための教訓が息ずいています。
東日本大震災から復興していく福島・宮城の沿岸部を歩いてみませんか？あまり報道されなかった平坦な沿岸部の風災の様子もうかがえます。
この４年で東北の人々が歩んだ教訓を親子で体験してください。災害からの学びと、自然と共存していく福島・山元地域の人々の暮らしについて、親子で学んでみてください。
☆福島と宮城の海物語～相馬、新地、山元方面（日帰り）
福島県の相馬と新地を訪問し、松川浦などで海にまつわる物語を伺います。宮城県では、山元や亘理を訪問予定。学びの機会の多い、日帰りのツアーです。
旅行代金：親子二人一組　9，800円（税込）参加費に含まれるもの：食事代１回、体験料、保険、送迎料
◆日程：8月23日（日）　◆集合：8:45 仙台駅団体バス乗り場
◆定員：親子15組（最少催行人数　10組）
◆行程：9:00 仙台駅→　相馬視察（体験）→　昼食→　相馬視察（松川浦ほか）→　新地視察（大戸観音堂ほか）
→　山元視察（中浜小学校ほか）※被災を伝える絵芝居上演→　わたり温泉鳥の海（入浴）→　18:30 仙台駅着
注意 親子とは、小学１年生から高校３年生までの子供と、その親です。３人以上での参加についても、ご相談ください。
行程は、交通事情・天候・その他やむを得ない事情により変更となる場合があります。ご了承ください。
お申込・お問い合わせ
＜旅行実施＞株式会社たびむすび　営業部（仙台市青葉区一番町 2-3-28 いろは横丁みやたび内）
◆TEL: 022-397-6649　◆FAX: 022-397-6748　◆E-mail：info@tabimusubi.co.jp　◆営業時間　9:00～17:00
◆定休日　土・日・祝日　◆URL：http://www.tabimusubi.co.jp/
（一社）全国旅行業協会員　宮城県知事登録旅行業第 2-344 号　国内旅行業務取扱管理者　猪野 雅子
※旅行代金はパッケージ一組あたりのものです。当行指定事項により変更される場合がございます。宿泊費に関しては事業補助額が反映されていた所存です。
※必ず事前にお申し込みください。当日しいて現、料金等のご案内を差し上げます。
＜企画＞　一般社団法人東北お遍路プロジェクト　事務局（仙台市太白区長町 3-9-10 エフエムたいはくビル内　022-264-7890）
◆WEB：　http://tohoku-ohenro.jp/
※このプログラムは、日本財団が日本政府と連携して推進する「海でつながるプロジェクト」の一環として行われています。

海が教えてくれた「生きる力」
東日本大震災から４年を経た東北の今を体験する
福島と宮城の海物語
仙台発着バスツアー　相馬・新地・山元方面（日帰り）
東日本大震災から４年。地震と巨大な津波の被害を受けた東北の沿岸地域は、多くの犠牲と大きな悲しみに包まれました。しかしそこには自然が教えてくれた生きる力と自然と共存するための教訓が息ずいています。
東日本大震災から復興していく福島・宮城の沿岸部を歩いてみませんか？あまり報道されなかった平坦な沿岸部の風災の様子もうかがえます。
今回は海でつながるプロジェクトとして海にまつわる教訓を体験するツアーです。災害からの学びと、自然と共存していく福島・山元地域の人々の暮らしについて、体験してください。
☆福島と宮城の海物語～相馬、新地、山元方面（日帰り）
福島県の相馬と新地を訪問し、松川浦などで海にまつわる物語を伺います。宮城県では、山元や亘理を訪問予定。学びの機会の多い、日帰りのツアーです。
旅行代金：　お一人様　4,900円（税込）　参加費に含まれるもの：食事代１回、体験料、保険、送迎料
◆日程：8月23日（日）　◆集合：8:45 仙台駅団体バス乗り場
◆定員：30名（最少催行人数　20名）
◆行程：9:00 仙台駅→　相馬視察（体験）→　昼食→　相馬視察（松川浦ほか）→　新地視察
→　山元視察（中浜小学校ほか）※被災を伝える絵芝居上演→　わたり温泉鳥の海（入浴）→　18:30 仙台駅着
行程は、交通事情・天候・その他やむを得ない事情により変更となる場合があります。ご了承ください。
お申込・お問い合わせ
＜旅行実施＞株式会社たびむすび　営業部（仙台市青葉区一番町 2-3-28 いろは横丁みやたび内）
◆TEL: 022-397-6649　◆FAX: 022-397-6748　◆E-mail：info@tabimusubi.co.jp　◆営業時間　9:00～17:00
◆定休日　土・日・祝日　◆URL：http://www.tabimusubi.co.jp/
（一社）全国旅行業協会員　宮城県知事登録旅行業第 2-344 号　国内旅行業務取扱管理者　猪野 雅子
※旅行代金はパッケージ一組あたりのものです。当行指定事項により変更される場合がございます。宿泊費に関しては事業補助額が反映されていた所存です。
※必ず事前にお申し込みください。当日しいて現、料金等のご案内を差し上げます。
＜企画＞　一般社団法人東北お遍路プロジェクト　事務局（仙台市太白区長町 3-9-10 エフエムたいはくビル内　022-264-7890）
◆WEB：　http://tohoku-ohenro.jp/
※このプログラムは、日本財団が日本政府と連携して推進する「海でつながるプロジェクト」の一環として行われています。

海が教えてくれた「生きる力」
東日本大震災から４年を経た東北の今を体験する
三陸の海が教えてくれたもの
仙台発着バスツアー　石巻・女川・南三陸方面
東日本大震災から４年。地震と巨大な津波の被害を受けた東北の沿岸地域は、多くの犠牲と大きな悲しみに包まれました。しかしそこには自然が教えてくれた生きる力と自然と共存するための教訓が息ずいています。
今回は海でつながるプロジェクトとして海にまつわる教訓を体験するツアーです。災害からの学びと、自然と共存していく三陸地域の人々の暮らしについて、体験してください。
☆三陸の海が教えてくれたもの、津波災害から得られたことを学ぶ
～石巻、女川、南三陸方面（１泊２日）
宮城県石巻市を見学し、まちびらきをした女川町や整備の進む南三陸町を訪問する。１泊での体験プログラムです。女川町では、できたばかりの体験施設「あがいんステーション」を訪問。地域の方のお話しも伺います。
旅行代金：お一人様　15,700円（税込）参加費に含まれるもの：食事代４回、宿泊代、体験料、保険、送迎料
◆日程：8月29日（土）～30日（日）　◆集合：8:45 仙台駅団体バス乗り場
◆定員：30名（最少催行人数　20名）　◆宿泊場所：女川町　エルファロ
◆行程：①１日目：８月２９日（土）
9:00 仙台駅→　石巻（日和山公園、門脇町を見守るお地蔵様、震長使節船ミュージアム　を予定）→　昼食
→　女川町内視察→　体験施設あがいんステーション（やってみよう！ホタテさばき体験予定）
→　トークショウ＆ライブ（あんべ光俊さん）→　海鮮バーベキュー＆交流会　→　女川温泉ゆぽっぽ（入浴）→
20:30 頃（エルファロ）着
②２日目：８月３０日（日）
7:30 朝食、8:30 出発→　南三陸（漁船で！体験）→　昼食（南三陸さんさん商店街）
→　南三陸町内視察（志津川、戸倉）→　上山八幡宮視察→　道の駅津山もくもくらんど（休憩）→　17:00 頃　仙台駅到着
※２名様以上のグループにてお申しこみの場合の旅行代金は、株式会社たびむすび営業部までお問い合わせください。
行程は、交通事情・天候・その他やむを得ない事情により変更となる場合があります。ご了承ください。
お申込・お問い合わせ
＜旅行実施＞株式会社たびむすび　営業部（仙台市青葉区一番町 2-3-28 いろは横丁みやたび内）
◆TEL: 022-397-6649　◆FAX: 022-397-6748　◆E-mail：info@tabimusubi.co.jp　◆営業時間　9:00～17:00
◆定休日　土・日・祝日　◆URL：http://www.tabimusubi.co.jp/
（一社）全国旅行業協会員　宮城県知事登録旅行業第 2-344 号　国内旅行業務取扱管理者　猪野 雅子
※旅行代金はパッケージ一組あたりのものです。当行指定事項により変更される場合がございます。宿泊費に関しては事業補助額が反映されていた所存です。
※必ず事前にお申し込みください。当日しいて現、料金等のご案内を差し上げます。
＜企画＞　一般社団法人東北お遍路プロジェクト　事務局（仙台市太白区長町 3-9-10 エフエムたいはくビル内　022-264-7890）
◆WEB：　http://tohoku-ohenro.jp/
※このプログラムは、日本財団が日本政府と連携して推進する「海でつながるプロジェクト」の一環として行われています。

海が教えてくれた「生きる力」
東日本大震災から４年を経た東北の今を体験する
三陸の海が教えてくれたもの
ツアーイベント！
あんべ光俊
トークショー
&
ライブ
朝の四季～
女川新しい海の物語
東日本大震災から４年半。新しいJR女川駅も開業し希望ある未来へ向かう女川の海から、女川の元気を発信！
ゲストスピーカー
特定非営利活動法人アスヘノキボウ　中村志郎氏他
入場無料
会場：女川フューチャーセンター
コ ワーキングスペース
日時：平成２７年８月２９日（土）
１６：３０～１７：３０

第４回東北お遍路フォーラム
～津波被災地をつなぐ、こころのみちしるべ～
開催日：平成２７年９月２５日（金）
時　間：　１８：００～２０：３０
（開場１７：３０）
会　場：せんだいメディアテーク
スタジオシアター（７F）
〒980-0821 宮城県仙台市青葉区春日町２－１
参加定員：５０名　入場：無料　（事前にお申し込みください。）
【会場マップ】
■講　演
「震災と宗教」
赤坂憲雄氏（岩手県立大学教授・学習院大学教授・福島県立博物館館長）
■東北お遍路巡礼地発表（第２次選定）
東北お遍路巡礼地マップ
インターネット情報システム（こころのみちしるべ）　同時発表
■パネルディスカッション
「被災者のこころにどう寄り添うか」
パネリスト　青柳健二氏（写真家）
あんべ光俊氏（シンガーソングライター）
山田政博氏（大蔵山スタジオ株式会社代表取締役社長）
コーディネーター　穴澤映男（一般社団法人東北お遍路プロジェクト理事）
主　催：一般社団法人東北お遍路プロジェクト
お問合せ：一般社団法人東北お遍路プロジェクト
〒980-0011 宮城県仙台市太白区長町３丁目９－１０（エフエムたいはくＢＦ）
電話・FAX：022－７７９－１９３（担当：金沢）
事務局メールアドレス：info@tohoku-ohenro.jp
※会場の座席には限りがございます。フォーラム参加希望の方は裏面申込書にて記入いただき、担当までFAXにてお申しこみください。
（なお、氏名、ご連絡先、メールアドレス、所属などをご記入のメールでのお申し込みも受付いたします。下記事務局のメールアドレスへご送付下さい。）
※フォーラム終了後、ご参加の方々との懇談会を予定しております。ご都合のつく方は、お気軽にご参加ください。

⑦ パブリシティ

- 7 月 26 日（日）　22:00／東北放送、岩手放送　あんべ光俊人の森を旅する道（共同代表高橋出演）
- 8 月 13 日（木）　17:30／FM 仙台　FLICK　MOTION（共同代表高橋出演）
- 8 月 14 日（金）　9;35／J-wave　HEART　TO　HEART　（共同代表高橋出演）
- 8 月 17 日（月）　12:00／FM 仙台　震災復興プロジェクト HOPE　FOR MIYAGI　（共同代表高橋出演）
- 8 月 19 日（水）　17:30／NHK ラジオ仙台放送局　ゴジだっちゃ！（共同代表高橋出演）
- 8 月　雑誌公益法人
- 8 月 24 日（月）　福島民報

3.11 からの復興（45）

地域を超え、巡礼地でつながる

～東北お遍路（こころのみち）プロジェクト～

一般社団法人 東北お遍路プロジェクト
共同代表　新妻 香織

被災地の中でも千年先まで記憶に残したい場所を巡礼地とし慰霊・伝承するだけでなく、経済・文化的な復興の一助にしようと活動する団体にご寄稿いただいた。（編集部）

あれから４年

東日本大震災の発災から４年４ヵ月が過ぎた。恐らく津波だけだったなら、福島県はもっと早く復興したに違いない。まだまだ人が立ち入ることさえできない区域が、私の住む相馬市より南に広がっている。津波被災地の最前線にある我が家の周りの景色も、随分と様変わりした。里山が崩れ高台移転の団地ができ、津波浸水区域にあった実家はもう防災緑地になる土山の下だ。近所にある津神社には東北お遍路の標柱が建ち、写真に収める人の姿を見る機会も増えた。

必ず福島に来なければならない仕掛けづくり

美しい祭観と新鮮な魚介類が売りの相馬市の松川浦だったが、再び観光地として復権するには、どうしてもここに来なければならない動機づけが必要だ…。そんなことを考えあぐねていた時に、思いついたのが「お遍路」だった。福島だけでなく、東北の津波被災地全体で巡礼の道を作ればいいのだと。

中には「被災地を観光地にするのか」という批判もないことはなかった。しかし、日々被災地の中で暮らしている目線からいえば、「物見遊山でもいいからやって来てお金を落としてほしい」というのが正直な気持ちだ。被災地の人々が生業を維持するための観光誘客も立派な復興の手段になるはずだ。

そうして、仙台市の異業種交流会「はなもく73会」の会員やNPO法人「フー太郎の森基金」の会員らの賛同を得て、2011年９月に会を発足。間もなく、巡礼地の公募が始まった。知り合いのいなかった岩手県は、全被災自治体を巡って趣旨を説明して歩いた。お除で大槌町の市民団

津神社でお遍路標柱の除幕式（福島県相馬市）

8/24

（3）　2015年（平成27年）8月

東北お遍路プロジェクト

相馬沿岸部の現状理解

バスツアー　県内外から22人

東日本大震災の被災地を結ぶ巡礼路の設置を目指す一般社団法人「東北お遍路プロジェクト」（仙台市）は二十三日、本県と宮城県の沿岸部の現状理解を深めるバスツアーを相馬市などで実施した。日本財団が政府と連携して進める「海でつながるプロジェクト」の一環。一般から参加者を募ったツアーは初めて。東北お遍路プロジェクトは福島、青森、岩手、宮城四県の沿岸部に鎮魂の巡礼路の整備を目指し、二月に五十三カ所を巡礼地に選んだ。

県内外から二十二人が参加した。巡礼地になっている相馬市磯部の稲荷神社・寄木神社では、新妻香織理事長（相馬市）が被災状況や海岸部の復旧状況をはじめ、高台にあるため、震災時は多くの住民が避難してきたことを説明した。

一行は相馬市内で魚介類の放射性物質検査体制も学んだ。広島市の新多美智恵さん（七）は「被害の大きさを実感した。今後も被災地に寄り添っていきたい」と話した。

稲荷神社・寄木神社で新妻理事長（右）から被災や復旧状況の説明を受ける参加者

● 9月25日（火）　東北「道の駅」公式マガジン「ｍｉｃｈｉ－ＣＯ」第１４号

東北お遍路紀行

【第1回】

早馬神社

（宮城県気仙沼市唐桑町）

唯一残った早馬（はやま）さん
在り続けることが心をつなぐ

「宿浦と呼ばれるこの浜は昭和のころまで遠洋漁業が盛んで、それは羽振りがよかったものです」。境内から鵜を眺め、当時を懐かしむ早馬（はやま）神社の禰宜（ねぎ）・梶原壮市さん。その視線の先には一軒の家すらなく、巨大防潮堤の建設を待つ更地が広がるばかりだ。

過去の経験から宿浦では、「地震があったら津波の用心」が慣わしだ。あの3月11日も、10人ほどが海抜12メートルの境内へ避難。そこへ15メートルの大津波が襲う。「家や車が流されるのを見て、さらに10メートル高い社（やしろ）へ逃げました」。足の不自由なお年寄りも周囲の人が支えて石段を上がり、全員が間一髪、難を逃れた。

唐桑の牛業（ぎゅうぎょう）は、その多くが漁業。特に、上質なワカメや牡蠣（かき）の漁獲で知られる。しかし、津波で家も船も漁具も失い、漁師の多くは再起する気力さえなくしたという。「でもあるとき、地元のリーダーが『浜の片付けだけは最後までやろう』と呼びかけ、漁師を集めました。毎日浜へ出て働くでしょう、すると、もう海は見たくもないと言った人までも、元気を取り戻したんです」。親交のある神奈川県小田原市の報徳二宮神社がボランティアの派遣やチャリティ活動による寄付などで、いち早く支援を行ったことも、漁業の復活を後押しした。

地域は災害危険区域に指定され、この先、人が住むことはない。早馬神社だけが残り、静かな湾を見下ろしている。「住民の皆さんは、まとまって高台移転されます。常に海が見える距離ではありませんが、心のつながりは続きます。われわれはいつもここにいて、果たすべき役目を全うしてまいります」

「早馬さん」がここに在り続けることが、これからも住人たちの心を支えていく。

■既史のある報徳二宮神社の支援で制作された鐘楼
■東支点物の写真パネルが展示されている
■禰宜の梶原壮市さん
■自然の恵みを教訓に伝えるべく、津波想定点を示すお碑が境内に建つ

巡礼地と千年物語を募集中！

巡礼地とその場所にまつわる千年先まで語り継ぎたい物語を募集しています。

一般社団法人東北お遍路プロジェクト
http://tohoku-ohenro.jp/

- 9 月 26 日（土）　河北新報朝刊、共同通信（中日新聞、４７ニュース、静岡新聞、佐賀新聞等）

NEWS ニュース　COMMUNITY コミュニティー　新聞購読のご案内　デジタル紙面

河北新報 ONLINE NEWS

毎週水曜日は マイナビ 独立

東北ニュース　全国・海外ニュース　スポーツ　震災・防災

トップ › 東北ニュース › 記事

広域のニュース

広域　社会　祈りと震災　ツイート　いいね！ 31　記事を印刷

＜祈りと震災＞巡礼地　新たに９カ所

東日本大震災で被害を受けた青森、岩手、宮城、福島４県の沿岸部に鎮魂の巡礼路を築く一般社団法人「東北お遍路プロジェクト」（仙台市）は２５日、新たに巡礼地として９カ所を発表した。巡礼地はことし２月に示した５３カ所と合わせて計６２カ所に上る。高橋雄志共同代表は「選定作業を続け、来年に第３次の巡礼地を発表したい」と話す。

９カ所の県別の内訳は岩手が机浜番屋群（田野畑村）など５カ所、宮城が千年希望の丘（岩沼市）など２カ所、福島は長命寺（相馬市）、青森は大蛇小の二つの津波の碑（階上町）となっている。

新たな巡礼地に選ばれた岩沼市の千年希望の丘

拡大写真

東北の主な巡礼地

トップ > 社会 > 話題のニュース一覧 > 記事

話題のニュース

ツイート　おすすめ　2015年9月25日 19時39分

被災地遍路、巡礼６３カ所に　「千年希望の丘」など追加

東日本大震災の被災地を四国遍路のように巡る取り組みを進める一般社団法人「東北お遍路プロジェクト」（仙台市）は２５日、宮城県岩沼市の震災がれきを使って造成した「千年希望の丘」など、青森、岩手、宮城、福島４県の新たな巡礼地１０カ所を発表した。２月に選定した場所と合わせて計６３カ所となった。

新たに選んだのは、他に岩手県大船渡市の越喜来地区で津波に耐えたポプラやケヤキなど。また、東京電力福島第１原発事故の対応拠点となっているサッカー施設Ｊヴィレッジ（福島県楢葉町、広野町）は、「スポーツ振興の拠点となることが望まれる」として、本来の姿に戻ることを条件に加えた。

（共同）

震災がれきを使って造成した宮城県岩沼市の「千年希望の丘」